

令和7年度（2025）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校穴吹ビジネスカレッジ

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 学校関係者評価委員会は、令和6年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和7年10月7日

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて専門学校穴吹ビジネスカレッジの自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、専門学校穴吹ビジネスカレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

村上 盛彦	香川県立琴平高等学校校長
今井 淳一	株式会社J R 四国ホテルズ 事業統括部
市原 克美	ハウス美装工業株式会社 総務部
上枝 洋介	本校卒業生
納富 由花	本校在校生保護者

(学校教職員)

鏡原 寿吉	専門学校穴吹ビジネスカレッジ 校長
壽福 英尚	専門学校穴吹ビジネスカレッジ 副校長
松元 賢一	専門学校穴吹ビジネスカレッジ 教務部長
岡田 大海	専門学校穴吹ビジネスカレッジ 教務課長

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和7年10月7日(火) 14:00～16:00

開催場所 学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 201教室

4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和5年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」、と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

5. 副校長より本校を取り巻く状況について説明（自己評価報告書より）

・学校運営(評価 A)

令和 5 年度から学内業務について、ワークフローシステムを導入し申請書・報告書・勤務カードが電子化し、ペーパーレス化を進めている。次は AI 使用におけるガイドラインを策定し、業務の効率上げる。

・教育活動(評価 A)

教育課程編成委員会を年 2 回開催し、カリキュラムの改訂、改善を行っている。

学生へのキャリア教育を充実させるため、教職員向けにキャリアサポーター養成講座を実施し、様々なアプローチから学生が前向きにキャリアを捉えていけるようにしていく。

教育の質保証として、前期、後期に学生の授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を教員にフィードバックすることで学生ニーズに即した授業の改善に繋げている。さらに穴吹教育総合研究所より教員の授業モニターにより、そこから見える改善点を教員にフィードバックをすることで教授力の向上を高めている。

教員の能力向上および時代に即した教授内容の提供を目的に、年間 15 時間以上の研修を受講できるように学園として取り組んでいる。

県内の他の専修学校・各種学校と協力、連携した教育はできていないが、企業や行政とは様々な連携をしており、「せとうちみらい共創プロジェクト」においては、学校・学科の枠を超えた授業外活動を行い、地域の課題解決やボランティアの実施、異文化交流の取り組みなどを通して、学生の自主性やリーダーシップの育成を行っている。

・学修成果(評価 A)

関係業界への就職については教務とキャリアセンターが協力し、業界就職率向上に努めている。

令和 6 年度業界就職率は 96%（昨年 92%）となっており、方向転換させることなく専門職に就職させることが出来ている。

・学習支援(評価 A)

令和 5 年度から学生相談の窓口として校内カウンセラーを設置し、個別面談を通して学生が抱えている悩みに対してヒアリングできる体制を整えている。さらに令和 6 年度には学生の保護者や教員にもカウンセリングの幅を広げている。

Hyper-QU アンケートによる支援が必要な学生を事前に把握し、アンケート結果は学生指導の参考資料として、学生が充実した学校生活を送れる体制づくりに努めている。

保護者総会、保護者支部会を毎年実施し、保護者とのコミュニケーションを図っている。

卒業生への支援体制ができていない為、アンケート調査等、卒業生のニーズを把握した上での改善が必要である。（国試の不合格者を対象とした研修を行っている学校もある為、参考にしたい。）

・教育環境(評価 A)

コロナ前と同様に優秀生海外研修や各種海外研修を実施できるようになった。

令和 8 年度から校舎が移転することで JR、ことでん、バスターミナルから近くなるため、利便性の向上、さらに改装後の校舎のため教育環境の充実が期待できる。

・学生募集と受入れ(評価 A)

社会人の学びなおしを目的に企業ビジネス学科が教育訓練給付金制度の認定を受けている。

・財務(評価 A)

黒字経営、健全な運営が出来ている。

・法令等の遵守(評価 A)

特に問題なし。

・社会貢献・地域貢献(評価 A)

通常の出前授業以外に、文科省事業である「専門学校と高等学校との有機的連携プログラム開発と実証事業」において県下 8 つの高校と連携し、「総合的な探求の授業」で指導、助言を行っている。さらに、高松マイロード、高松クリーンデーに参加し、ボランティア精神を養っている。

・総括(評価 A)

学校評価の目的に沿って自己評価を行い、学外の学校関係者による委員会を経て、評価を公開している。

自己評価結果(評価 A)

<令和 6 年度目標>

入学者 69 名に対し 43 名のため、目標未達成

退学率 3%未満に対し 4.6%のため、目標未達成

C1 企業内定率 40%に対し 34.6%のため、目標未達成

<令和 7 年度目標>

入学目標 46 名

退学率 3%未満

就職希望者 2 月末までに内定率 100%達成

6. 添付資料について説明

①自己評価報告書について

本校自身で行った自己評価について外部委員の皆様から意見をいただきたい。

ビジネスカレッジの評価は「A」であった。

②産学連携および検定、就職実績報告について

③保護者アンケート結果について

④単位制移行および学校再編について

7. 外部委員より意見・質問

①村上委員

学生の授業評価アンケートを実施しているので、並行して教員の学校に対する満足度アンケートを実施することで、教員の働きやすい環境作りに繋がる。

②今井委員

C1 企業の定義は何か。

→上場企業、県内優良企業のうち穴吹カレッジで選定している企業を C1 企業としている。C1 企業の内定数を目標に取り組んでいる。

採用者数が年々増えており、それに伴い穴吹カレッジ生の採用数も増えている。新入社員が増えることに伴い様々な業務に慣れさせることが必要で、指導の丁寧さが求められる。それが離職率の低下に繋がる。教員の研修など丁寧な指導はしているか。

→教員の研修は年間 15 時間以上を目標に能力向上に努めている。

非認知能力向上の教育に力を入れてはどうか。

→カレッジ全体で非認知能力の研修を受講しており、学生が壁にぶつかっても前向きに取り組めるようアドバイスや指導をしている。

③市原委員

留学生は香川での就職、または香川以外の日本での就職どちらを希望しているか。

→進学した学校が香川であれば、その生活に慣れているためその地域以外の就職は希望しないことが多い。

他の専門学校との連携した教育とは穴吹カレッジ以外の専門学校との連携なのか。

→穴吹カレッジ以外の専門学校（他法人）との連携であり、現在は連携した教育はできていない。今後連携できる分野を定めて連携していきたい。

④上枝委員

職業実践専門課程に認定されるメリットは何があるか。

→企業との連携、企業が求める学びをカリキュラムに反映するなどニーズに即した教育が提供できることが大きく、今後一条校になるために必要なステップであると捉えている。

⑤納富委員

学生の内定が単願制はなぜか。

→香川県内の内定は単願制、県外は併願制である。また、企業セミナーや会社訪問は同時進行で複数行ってもらっても構わない。そうした企業研究を経て、就職試験は優先順位をつけて受験してもらっている。香川県内の企業からすると大学生と違って必ず内定先に就職してくれる穴吹の単願制は人材確保の点から評価しているとの声も複数寄せられている。

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

以上